

I-O DATA

株式会社アイ・オー・データ機器は、ことし1月に40周年の節目を刻んだ。その翌月、今度は東京証券取引所市場第2部から第1部に市場変更した。2月半ばに東京で開いた投資家らに対する2016年6月期第2四半期決算説明会で、細野昭雄社長は「創業の原点に立ち返り、お客さま本位の経営で10年後も、50年後も着実な成長を目指す」と強調した。マス、多数を対象にした「パソコン周辺機器メーカー」から、「ユーザー個々のデジタルライフを支える存在」へ進化をめざすことを宣言したのである。

「40周年と同時に東証1部へ進化めざす」「日本流ーT」へ進化めざす



ロビーに展示してある80年代に受注生産した機器を若い社員に説明する細野社長(左)。階段には東証1部上場祝いに贈られたランの鉢植えが並び
=金沢市桜田町3丁目の本社



上場を記念し鐘を鳴らす細野社長=ことし2月5日、東京証券取引所

個人の要望支える存在に

細野社長は、これまで関わってきたITの世界が多くのユーザーの最大公約数をベースに伸びてきたと考えており、それを「アングロサクソン流」という言葉で説明する。それこそ、「一網打尽にしよ」とする勢いで投網をかけているが、世界的に知られているサービスでも日本の市場に十分な満足を与えているかと言えそうではない。網からこぼれ落ちたけれども、ほしかったサービスや大事な機能がたくさんあるのではないかと、というのである。

「ちょっと便利」を大切に

キヤッチコピーにある「デジタルとアナログを『アイ』でつなぐ」とは、世の中のだれもが簡単に、アナログ感覚で最新のIT機器やデジタル機器を利用できるようにする。そこで網からこぼれた機能をアイ・オー・データのサービスや機器で補おうというものであり、それにより生活がちょっと便利になった感動を味わってもらおうという、あくまでもユーザー個々を主役にした考え方なのである。

日本市場は満足したか

細野社長の考えは、アイ・オー・データ機器の40周年と東証1部上場を伝える新聞の全面広告のキヤッチコピーが端的に示している。

株式会社アイ・オー・データ機器
1976(昭和51)年1月金沢市高岡町で設立。デジタル家電周辺機器の製造・販売を事業内容とし、東証1部上場。本社は金沢市桜田町3丁目。細野昭雄社長、資本金35億807万円、決算期6月。2015年度売上高411億円(連結)。従業員479人。

「デジタルとアナログを『アイ』でつなぐ」
「これからも小さな感動を提供し続けます」



- 【スティックPC】**
USBメモリーより少し大きめの本体に、PCに必要な機能が詰め込まれている。一般的なPCと同じOSが動くため、周辺機器も使える。また、本体にHDMIの端子を装備し、テレビやディスプレイに直接挿して使える。
- 【NAS】**
Network Attached Storage(ネットワークに接続された記憶装置)の略称で、ネットワーク(LAN)上に接続することができるハードディスクを指す。

内では数年先を見据え、昨年7月事業戦略本部で組織に横串を入れるプロジェクトを立ちあげた。今年には液晶ディスプレイ、スティックPC、NAS、CDレコ、ネットチェイナ―/STBと5つのプロ

数年先の需要を見据え

細野社長の考えを体現するように、アイ・オー・データ機器の社

他企業と連携も

プロジェクトチームである。このうちのCDレコは、アイ・オー・データ機器が開発したスマートフォン向けの周辺機器である。パソコンがなくても音楽CDをスマホやタブレットに取り込めるなど、「あるようになかった」商品だけに、発売以来大きな反響が続いている。

デジタルとアナログつなぐ

スマホで音楽を楽しむ配信サービスは世界的な規模のiTunes(アイチューンズ)をはじめ国内外に大小いろいろあるが、ダウンロードするだけでなく、手持ちのCDを取り込んで聴きたいという要望も少なくない。CDレコは、東京のベンチャー企業と連携し、スマホに歌詞が表示されるようにしており、歌詞を見ながら曲を聴く従来のスタイルであらゆるジャンルの音楽を楽しめる。細野社長は

部門を横断するプロジェクト きめ細かなニーズにこたえる



活発にアイデアや意見が飛び交うプロジェクトチームの定期ミーティング=本社会議室

カーの出荷台数でシェア・ナンバー1」という設計から部材の選定チューニングに至るまで「5つの安心」を強く印象づけることになり、3年保証の時より好調な売れ行きを見せているという。

全国当日保守サービス

もう1つの成果は、NASのトラブルをその日のうちに解決するという「当日オンサイト保守サービス」の導入である。アイ・オー・データ製のNASに不具合が出ても、午後5時までにユーザー側とのやり取りで訪問が決定すれば、北海道から沖縄まで、その日のうちにスタッフが駆けつける。対象エリアは日本全国90%以上となっており、復旧作業に伴うユーザーの手間と時間、費用の悩みを軽減するサービスだ。

目に見えない分野に

IT端末の主役はパソコンからスマートフォンに変わったが、そのスマホの時代もいつまで続くかわからない。細野社長が宣言した「パソコン周辺機器メーカー」から、「ユーザー個々のデジタルラ

「デジタルライフにアナログ的なものを取り入れる感覚」「デジタルとアナログをつなぐ感覚」と説明する。

社員の思考の質に変化

5つのプロジェクトチームのメンバーは、企画開発部、販促部という部門間の壁を取り払い、社内横断的な構成で作られた。月に1、2回の定期ミーティングはテレビ会議システムも使って開かれ、活発に意見を出し合う。事業戦略本部長の濱田尚則常務は「立ちあげからまだ9カ月だが、いくつか成果を出しており、社員の思考の質も変わってきた」という。

安心感増す5年間保証

その成果の1つが、プロジェクトのメンバーたちの意見により従来3年間だった液晶ディスプレイの保証期間を、バックライトやパネルも含め「5年間保証」にしたことである。結果的にユーザーに「安全優先の設計▽トラッキング対策済み電源プラグ▽高信頼のコンデンサー▽独自のチューニングによる適正な色表現▽国内メー

【クラウドサービス】

インターネットを経由して、ソフトウェア、ハードウェア、データベース、サーバーなどを利用するサービスの総称。大規模データの保管、顧客管理など企業向けのサービスやデジタル情報を端末間で共有できるなど個人向けのサービスがある。

「イフを支える存在」への進化は、目に見える機器だけでなく、他企業との連携による様々なクラウドサービス、セキュリティなど目に見えない分野であっても、日本のIT市場の求めに、きめ細かく応じようという心構えなのである。



アイ・オー・データ機器の第2ビル=金沢市桜田町2丁目

姿変えてもIT化は続く 小粒でもピリ辛の会社を

率直な話しぶりには、東証1部上場のIT機器メーカーの創業者という気負いはない。しかし、話の中身には一歩先を見ようとする経営者の姿勢と理系独特のメカニク的な視点が随所に感じられた。節目を迎えてなお、ITの近い将来像を探ろうとするアンテナを磨き、様々な方面に向けているようである。



細野 昭雄 氏

1944(昭和19)年金沢生まれ、72歳。石川県立工業高校電気科を卒業後、ウノケ電子工業(現PFU)に入社、金沢工業大学情報センターなどを経て、1976(昭和51)年アイ・オー・データ機器を設立、代表取締役社長に就任し現在に至る。この間1986(昭和61)年石川県情報システム工業会会長、2010(平成22)年から同会顧問。

変化のスピードを実感

— 会社の設立40周年と、東証1部上場おめでとございませう。これまでと変わった、と思われることはありますか。

細野社長 大変苦しい時期もありましたが、40年はアツという間でした。ロビーに展示してある35年ほど前に造った機器を見ると、この業界の変化の速さを改めて実感させられますね。また、東証1部上場についてですが、アイ・オー・データ機器は設備産業ではありませんので、経営上これまでとそんなに大きな変化はありませんし、社内の意識も変わらないようですよ。ただ、最近社外で「東証1部上場会社の社長がまだ自分で車を運転しているの?」と言われることも多くなりました。

転機はマイコンの一般化

— 40年を振り返って、会社が大きくなる転機となったのはいつですか。

細野社長 会社設立は金沢市高岡町の自宅が本家で、1980(昭和55)年7月に北陸初のマイコンショップを金沢駅前の本町に開設しました。創業当初は繊維機械周辺の情報処理装置などの受注生産を社員15人前後で手掛けていました。ところが、徐々に国内でマイコン(現在のパソコン)が一部マニアから一般ユーザーに浸透し始めると、メモリや外付けフラッシュドライブなどの拡張装置が必要になり、社屋・工場を駅西本町に移しアイ・オー・データ製の拡張機器を全国に向かつて製造販売することになりました。振り返れば、それが転機だったと言える

の少なさを叱っていました。しかし、今では自分が同じ環境で育てば似たり寄ったりだと思えるようになり、丸くなりました。

小粒ならではの価値

— ITや会社の将来についての考えはどうでしょう。

細野社長 パソコン、スマホと次々と形は変わってくるでしょうが、クラウドサービスなどIT化はとどまらないでしょう。ただ、それも全てマス(大衆)を対象にした欧米発のサービスです。日本流の個人をメインに扱うきめ細やかなサービスに注目しています。大量生産、大量販売ではなく、小粒(な会社)ならではの独特の価値が通用する分野を開拓したいです。

興味は人工知能の応用

— 趣味は何ですか。また、最近何に興味を持っていますか。

細野社長 最近では散歩をしながら、たし、ゴルフも練習場程度です。いま、一番興味を持っているのは人工知能です。研究者や大学発ベンチャーの話など、いろいろ見聞きして、人工知能がこの世界を大きく変えるのではないかと思っています。人工知能の開発そのものではなく、それを何に、どう応用できるのか、考えることも楽しいですね。



北陸初のマイコンショップだった瓦ぶきの旧社屋。昭和55年ごろ、金沢市本町

会社設立から40年間の主な出来事

年	月	内容
1976	昭和51	1 金沢市高岡町に株式会社アイ・オー・データ機器を設立。「カラーグラフィックディスプレイ装置」第1号を開発、販売開始。
1977	昭和52	5 マイクロコンピュータ応用のシステム開発に着手。
1980	昭和55	6 安心会計「マイコン寿司」システムを開発、販売開始。 7 北陸初のマイコンショップを金沢市本町に開店。
1983	昭和58	春 駅西工場が稼働。 8 「パソコン用8インチフロッピーディスクユニット」を開発、販売開始。日本電気製PC-9800シリーズパソコン用周辺機器分野へ参入。
1984	昭和59	2 独自の「I・Oバンク方式」による日本電気製PC-9800シリーズパソコン用増設メモリーボード(512KB)を開発、販売開始。
1991	平成3	3 日本証券業協会に店頭登録。
1993	平成5	7 シンガポールのクリエイティブ・テクノロジー社と合併会社「クリエイティブ・メディア株式会社」を設立。
1995	平成7	10 日本短波放送主催の「ラジオたんぱ店頭株式ブルーチップ賞」を受賞。
1996	平成8	1 子会社「国際艾欧資訊股份有限公司」を設立。 3 日本経済新聞主催、国土庁後援「第3回地域活性化貢献企業賞」を受賞。 11 株式の投資単位を1,000株から100株に引き下げ。
1997	平成9	10 中部通商産業局平成9年度輸入促進貢献企業に選ばれ表彰を受ける。
1998	平成10	5 国際標準化機構(ISO)の品質保証規格である「ISO9001」を取得。 11 シンガポールに横山商会との合併会社「I-O & YT Pte. Ltd.」を設立(2004年に同社を子会社とする)。
1999	平成11	10 ポータブルシリーズZCDPR-AX420ほか3製品が(財)日本産業デザイン振興会主催の「グッドデザイン賞」を受賞。
2002	平成14	1 子会社「艾欧資訊横山(香港)有限公司」が営業開始。国際標準化機構(ISO)の品質保証規格である「ISO14001」を取得。
2003	平成15	8 テクニカルコミュニケーター協会主催「日本マニュアルコンテスト2003」において部門優良賞を受賞。
2004	平成16	12 ジャスダック証券取引所に上場。
2009	平成21	9 アナログテレビ用地上デジタルチューナーにおいて、総務省の「平成21年度地上デジタル放送受信機器購入の支援事業」における製品納入業者に採択。
2012	平成24	3 子会社「ITGマーケティング株式会社」を設立。
2013	平成25	7 コーポレートロゴをリニューアル。
2015	平成27	8 東京証券取引所市場第2部への市場変更承認。
2016	平成28	1 東京証券取引所市場第1部指定承認。